

労働保険事務
組合へ加入で
経費の節約を

大森工場協会会報

第 20 号
昭和63年 6月15日
発行 大森工場協会
編集委員会
東京都大田区中央2-11-10
TEL. 03(771)4744・(772)6474
FAX (772) 9340
印刷 城南印刷工芸(株)
TEL. 03 (752) 3 3 9 1

よりメリットある協会へ 木村会長2期目へ抱負 定例総会盛大に終る



▶挨拶する木村会長と会場風景

▼高野産業経済部長の音頭で乾杯!

総会

昭和63年度定期総会は、5月23日(月)午後5時30分より大森東急イン5階「孔雀の間」において開催された。

吉村事務局長司会のもとに、入沢副会長の開会のことばをもって開会。

●全議案は満場一致で可決承認
会長挨拶の後、議事に入り、昭和62年度事業報告並びに収支決算報告、昭和63年度事業計画案並びに収支予算案が原案通り可決承認され、続いて任期満了による役員改選に移り、5名の選考委員の推薦による理事14名、監事2名の選任が可決承認され、直ちに開催された理事会において担当人事(別掲)が決定、念願の会館改装完了と共に、気持も新たに本格的な新

年度事業推進に向ってスタートを切った。

議事終了後、大田工連佐野副会長(千葉会長代理)より来賓祝辞を頂き、午後6時50分、車田副会長の謝辞をもって閉会した。

懇親会

総会終了後、会場を「白鳥の間」に移して祝賀パーティを開催。

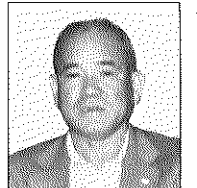
木村会長挨拶、事務局長による来賓ご紹介の後、西野区長より祝辞を頂き、高野産業経済部長のご発声で乾杯、祝宴に入った。

飲み且つ食べ、やがて飛び出すカラオケのど自慢で和気あいあいの裡に時が過ぎ、締め繋りの挨拶に立った片山副会長は、満場の拍手に呼んで、プロそこ退けのマジックで有終の美を飾り、午後8時

新役員紹介



山沢工具(株)
社長 山沢澄夫氏



鈴木工業(株)
社長 鈴木一男氏

(副会長)

(監事)

半過ぎ、お互いの健康と発展を祈りつ、散会した。

なお、駆けつけた大内民社党書記長からも祝辞を頂いた。

来賓の方々

(大田区) 西野区長、高野産業経済部長、皆川産業振興課長、大月産業経済部副主幹、田村産業第二係長
(大田工連) 佐野副会長
(協会) 上杉相談役、小林顧問(代理)

発展を期する 三本の柱

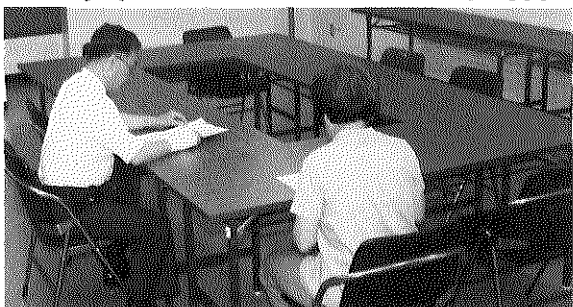
産業振興にお力添えを



大田区長
西野善男氏

「大田区は63年度の予算編成に当たって、今後の高齢者社会を考えた福祉施設の充実、産業の振興、文化の香りがする地域社会の建設を三本の柱として重点施策を図ることとした。特に産業の振興については、工業に携わる皆さんの知恵と経験をお聴かせ頂くことが、その実現への大きな力になります。」

会館改装なる 張り切る事務局 会員サービスにも余裕



いかにも重苦しい感じだった事務局が衣替えをして、スッキリ明るい合同事務室に生まれ変わりました。会議室も隣り合わせて何かと便利。事務局一同大いに張り切っています。会員の皆様、是非お立ち寄り下さい。

役員 人事

会長 木村 吉男 理事 伊勢 養治 理事 丸山 旭
副会長 入沢 英友 大塚 和一 舟久保利明
" 片山光太郎 " 吉田 彰 " 上杉 信雄
" 車田 昌一 " 中道 金吾 監事 尾作 徳治
" 鈴木 一男 " 大崎 和夫 " 山沢 澄夫
" " " " 助川 正義

大田区工業の 維持発展は 工連を中心とした団結から



大田工連副会長
佐野一雄氏

「昨今景気上昇が言われているが、我々中小企業の工業界の将来について憂い悩んでいる人も多い。古来、京浜地帯は工業で栄えて来た地域であり、絶対に持ちこたえねばならない。色々な問題はあろうが、何と言っても大田区は工

会員相互の交流 と発展に全力を

大森工場協会会長 木村吉男

厳しい環境に拘らず大過なく62年度を終了出来て、会員各位に心から感謝の意を表したい。区も今春から経済課を産業経済部に昇格させて、産業振興に積極的な態勢をとることになった。大変喜ばしいことであり、当協会としても400社を割った会員数の増強を図ると共に、新装成った本拠地の機能を活用して会員相互の交流と発展に努める所存であります。



幸栄精機(株)
社長 吉田 彰

子供はみんな 社会の子 大人みんな 注意の声を

これは一番簡単なことですが、一番難しい。子供はカミさんに生ませてカミさんに育てさせればいいのですから、これほど簡単な事はない。しかしこれをいかにして、世間の荒波にもまれながら成長させるかというのは難しい。

現在のようないろんな環境の中で育てるのは、かえって物の無い時代に育てるより難しいのではないかと思います。私が小学校で3年間のPTA会長時代にお母さん方と実践したテーマは「ふれあい」ということでした。

「ふれあい」という言葉はいろいろな所で使われていますが、PTAでの「ふれあい」は非常に考えなければならぬ部分と、即行動しなければならぬ部分があります。そして皆の協力が必要です。

子供との肌のふれあい、PTA同志、先生方とのふれあい、地域との交流によるふれあい。

学校教育は先生方にお任せすべきです。社会教育は教育委員会とか地域の方々にお願いして、子供を守って頂くとして、家庭教育こそが私たちに与えられた最大のテーマではないかと思えます。

この家庭教育を時々忘れて、「お母さん」であるべき女性が、××ママ、△△ママに変身する。例えば「教(強)育ママ」といったたぐい(類)です。子供が震えあがる××ママよりも柔かくほんわかした「お母さん」が一番良いように示すべし。

●幼い時から冷たくあしらうべし。スキンシップとか遊び相手になるのは禁物。
(情緒障害発生法)

●食卓のだんらんは家庭から一掃すべし。子供の話題や関心など他愛がない。
(無関心のすすめ)

●子供がどこで何を遊ばせてあげようか気にするな。遊び相手について全く気にするな。
(不良感染のすすめ)

わが子を非行化 させる秘けつ 12か条より抜粋

逆説的子育て論

に示すべし。

●お金こそが人生の最高目標であると身をもって教えこむこと。
(短絡的問題解決のすすめ)

5月YMクラブ勉強会 子どもの 教育について

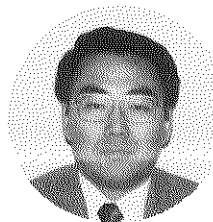
お子さんの前では、賢い女ではなく、柱に頭をぶつけてコブを作ったりする、時々失敗する人間味のある「お母さん」であつたら、話題が絶えず、明るい家庭になりますよとお母さん方に話しました。矢張り家庭というのは大切ですね。教育は母親、遊びは父親と分け

ておられる家庭もあるし、嫉は母遊びは父と分担されている家庭もあります。両親の意見だけは一致させておいて頂きたい。

我が子を非行にさせ る12箇条から学ぶ

谷さんが前々から具合が悪かったのですが、東邦医大に入院。芦田さんがスポーツでアキレス腱を切断。それから山野さんがミル性急性肝炎という事で心配されましたが、今後油断は許されないとこの回復に向っています。

25周年記念に海外研修を計画中で、(株)昭和徳さんが台北に工場を出してありますので、その見学を含めて、9月15日から4日間。費用16万円位、で予定してあります。



(株)昭和製作所
社長 舟久保利明

風邪をひきまして、命より健康が大事だという事を実感しています。会員の近況ですが、柳

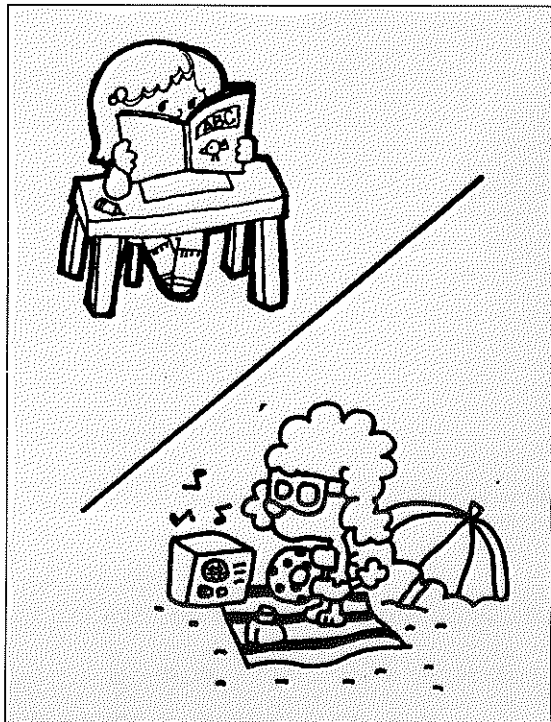
自分の子 は家庭で 責任を



ティヴィ・バルブ(株)
社長 竹内 栄多

吉田さんが殆んど、話してくれましたので、一言だけ追加します。子供を育てるのは一回勝負で、親として試行錯誤をしながらトライし、育て終って間違つたかなと感じる事もあるわけで、十二箇条

を実行するのは大変だろうなと思います。中学校のPTA会長を一年やりましたが、そこで感じた事は、お母さん方が、子供の規制を学校や社会に頼りすぎることです。



別掲した横浜の保護監察協会から出されたパンフレットを参考にコメントされた。

皆さんの力を 貸してください

PTAにも顔を突っこみ、青少年対策委員会等で子供たちに直接たずさわり、少年補導員として警視庁の防犯課から委嘱され、又保護司を法務大臣からおおせつかり仕事として、親として子供たちの健全教育にいろいろな角度から取り組んでいます。やはり私達が

やっつけていかなければならぬことは、地域社会にあっては、子供達が悪い事をしていない場合に無関心を装わず、大人として注意をしてあげる事です。子供達は俺達に關心を持って貰っているなど気づくでしょう。

又不幸にして非行化した子供たちの更生に手を貸して頂きたいと思えます。

子供達が非行に走るのには本人の意志薄弱ということもありますが、家庭の歪みが大きく左右する場合があります。自分の家庭だけでなく、地域社会の中で会社を経営なさっているのですから、子供は自分の家庭内だけではなく、身の廻りにいっぱいいるんだという事を頭に置いて頂きたいと思えます。

私も保護司になる前は、非行の子に気づかず自分とは関係ないと思っていたのですが、今6人の不幸を重ねた子供を預っています。

自分の子供は、自分で規制する。何んでもかんでも学校という事で、最近では校則とかが問題になってくる。学校を離れた時は校則は関係ありません。家庭の責任です。自分の家庭ではこれだけのものは容認してあげる。但しそれだけの責

私の周りに6人の不幸な子供がいるという事です。ということはいずれも皆さんの周りにもいるということだと思います。

中学時代に非行に走つた子は高校に進みませんし、進学したとしても半年か1年で退学が殆んどです。この子達は18才以下です。親の承諾がないと職にも出られないし、残業等に制約があり、使用しづらいのですが、皆様には是非受け入れて頂いて、先生や警察の少年係、保護司、民生委員の方々と連絡をとりながら、不幸に走つた子供の更生にお力を頂ければとお願いいたします。

教育の話にはなっていないかも知れませんが、皆さんにも、多少余裕が出来てからといわず、仕事の合間をみて、地域社会に不幸な子供が沢山いるんだということにご理解を頂き是非力を貸して貰いたいと思えます。



任がある。事故を起したら自分の責任だという事を教育する。皆さん方には、何んでも学校や社会に規制して貰うという考え方を起さないようにして頂きたい。自分の子供の責任ぐらゐは家庭で持つて貰いたいという事です。